

シンガポールバイヤー招聘事業 県産りんご輸出に向けたオンライン商談の実施

11月26日、秋田県大館市産のりんご(秋田紅あかり)のシンガポールでの販路拡大を目指し、シンガポールに本社を持つ(株)RE&S JAPANとのオンライン商談を行いました。秋田県側からは産地であるJAあきた北、卸業者の(株)松紀が参加し、(株)あきたアグリサポート、秋田県農業政策課、北秋田地域振興局農業振興普及課がサポートとして参加しました。

秋田紅あかりは11月上旬までに収穫を終えています。今年は4月の霜害などの影響を受けたため例年と比べ収穫量は少なくなりましたが、味や食感には影響はないとのことでした。

RE&S JAPANでは事前に秋田紅あかりを試食しており、シンガポール人の嗜好を踏まえた感想についてヒアリングしました。食べた時の食感、色や模様など見た目についてはたいへん高評価でした。味については甘みと酸味のバランスが良いとしながらも、酸味に敏感なシンガポール人にとっては、わずかな酸味でも気になる可能性もあるとのことでした。今回試食したりんごは採れたてだったため、酸味がやや強く残っていたものと思われ。そこで、実際に輸出する場合には収穫後少し寝かせ、甘みが増してから出荷するのが良いのでは、という意見がありました。秋田紅あかりは冷蔵庫で温度管理して保存することで、2月いっぱい問題なく食べることが出来るそうです。

そのほか、商談では出荷時期や輸送方法、出荷までの商品の保管方法などについて話し合われました。今



秋田紅あかり(鮮やかな赤色に星空のような黄色の果点が特徴)

回の輸出は大阪からの空輸を予定しています。

オンライン商談後、RE&S JAPANから見積書とサンプルをシンガポール本社へと送り、現地担当者も含めて輸入について検討しています。今期はトライアルとして、1月中旬に出荷し、2月1日の旧正月に向けて現地販売することを目指しています。

1月中旬から下旬にかけては、RE&S JAPANのバイヤーを秋田県に招聘し、産地視察やりんご以外の商品の提案、商談会などの実施も計画しているところです。

シンガポールとの継続的な販路確立を目指し、今後もサポートを続けます。

秋田商工会議所事業「日中露韓4地域経済交流会議」へ参加しました

11月2日、日中露韓の経済団体等による4地域経済交流会議が、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、オンラインにて開催されました。

秋田県側は秋田商工会議所が中心となり、当協会からは齊藤会長とネザムトチノフ・ヴィクトル専門アドバイザーが出席しました。

会議では、各地域の専門家から外国経済活動や国

際協力のための新しい取り組みについての説明がありました。また、地域間の連携や共同事業展開について関心がある地域企業によるプレゼンテーションが行われました。

次回の会議は、秋田商工会議所が主導し、秋田県で開催する予定となりました。

秋田の貿易ビジネスをサポートします

ATPA 一般社団法人 秋田県貿易促進協会

電話 018(896)7366 FAX 018(896)7367 Email info@a-trade.or.jp ホームページ http://a-trade.or.jp/

〒010-0951
秋田県秋田市山王2丁目1-40 田口ビル1階

ATPA
一般社団法人
秋田県貿易促進協会
Akita Trade Promotion Association

Newsletter

第59号
2022年1月発行

新年挨拶

一般社団法人秋田県貿易促進協会
会長 齊藤 健悦



あけましておめでとうございます。

皆様には、輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

令和3年度に入っても新型コロナウイルスの猛威は衰えることなく、感染は拡大する一方でしたが、ワクチン接種が進んだこともあり、国内の新規感染者数は9月以降大幅な減少に転じ、その後も低水準で推移しています。

海外では、まだ新規感染者数が多い国があり、また、オミクロン株という新たな変異株の感染拡大への懸念もあります。今年こそは、世界的に新型コロナウイルスが収束し、渡航制限が緩和され、海外との自由な経済交流活動が再開に向かうことを期待しております。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、ビジネスモデル、社会の仕組み、人々の生活にも様々な変化が生じています。

当協会の事業も、これまで行ってきた海外商談会・フェアの開催、海外ミッション派遣などによる貿易取引、投資の推進・拡大の取り組みに加え、今後は、急速に拡大するデジタル化の流れを踏まえるとともに、ウイズ・アフターコロナ時代にも貿易取引が拡大するよう、海外とのオンライン商談会や越境EC、海外オンライン展示会などの活用にも積極的に取り組んでいく必要があると考えていますので、会員の皆様には引き続きご支援ご協力をお願いいたします。

さて、私こと昨年10月、秋田県文化功労者表彰という思いもかけない栄誉に浴しました。当協会に

おける国際経済交流推進の活動を評価していただいたもので、これもひとえに会員の皆様、関係者の皆様のご支援の賜と深く感謝いたしております。この度の受章に恥じぬよう、今後も本県経済の発展のため、海外との経済交流や貿易取引の拡大に全力で取り組んでまいります。

本年が、皆様にとりまして、明るく実りの多い年となりますよう祈念し、新年のご挨拶といたします。

齊藤会長が「秋田県文化功労章」を受章

当協会の齊藤健悦会長が「令和3年秋田県文化功労者」に選出されました。秋田県文化功労者表彰は、秋田県の文芸、技芸、美術・工芸、学芸、教育、民生・社会福祉、農林業・漁業、産業及び保健衛生等の本県文化の向上発展に卓越した功績のある個人または団体の事績をたたえ、表彰するものです。

齊藤会長は、秋田県貿易促進協会において、海外との経済交流、貿易取引拡大を積極的に推し進めている功績をはじめ、異業種交流による産業の高度化や本県電子工業界の発展に尽力した功績などが評価され、産業分野(国際経済交流の推進)での文化功労章の受章となりました。

昨年10月29日に秋田市文化会館において表彰式が行われ、佐竹知事から齊藤会長をはじめ8名の皆様に文化功労章及び表彰状が授与されました。



佐竹知事より表彰される齊藤会長

令和3年度第2回正副会長会議

11月16日、秋田ホテル会議室にて、会長、副会長、専務理事出席のもと正副会長会議が開催されました。議案は、令和3年度の事業進捗状況と今後の予定、令和4年度の事務局体制および事業実施方針の2点です。

事務局からは、今年度は昨年同様コロナ禍の煽りを受けて特に貿易取引の拡大促進事業の進捗は芳しくないものの、出来ることから地道な活動を継続していることや、新年度は事務局1名減員となるものの、サービス低下することなく各種事業に取り組むこと等が報告されました。引き続き、出席者による質疑応答、意見交換が行われ、現状では海外との往来に制約があるためオンラインを有効活用することや、行政、関係機関等との連携を一層強化して、県内企業の貿易取引拡大



正副会長会議の様子

を積極的に支援すること等を確認しました。今年度第3回の正副会長会議は、2月の開催を予定しています。

令和3年度事業の進捗状況と今後の予定

前年度に続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、海外はもちろん国内移動さえ制限される中、当初計画のままでは実施できない、変更しなければならぬ事業は都度見直ししながら進めてきました。ある程度予想していたとは言え厳しい環境はしばらく続く

ものと見込まれ、引き続きオンラインを有効活用し、状況に合わせた対応を心掛けていきます。これを踏まえ、現在の進捗状況と今後の予定などをお伝えします。

No.	事業名	進捗状況と今後の予定
1	シンガポールバイヤー招聘	現地バイヤー招聘は困難と判断、国内駐在バイヤーの県内招聘を目論んでいたが、国内移動も制限されたためオンラインで一部商談を開始、サンプル品提供済み。 引き続き、年度内の招聘に向け準備中。
2	台湾輸出促進	前年度に続き、当協会から推薦した事業先が11月開催の「秋田台湾オンライン商談会」に参加、台湾企業と商談した。
3	米国プロモーション活動	4～5月に県内3酒蔵による日本酒ウェビナーを開催、現地顧客への県産日本酒のPR活動を実施。9月に日本酒講座「WSET SAKE LEVEL3」、10月にその認定試験を開催し、専門的知識の習得や県産日本酒のブランド確立を目指した。 引き続き、年度内の有識者の県内招聘に向け準備中、併せて新年度への事業継続を検討している。
4	越境EC活用	7月の2日間にわたり外部講師によるウェビナー「オンラインを活用した商取引セミナー」を開催。8月にはフォローアップ面談を実施し、個別相談した1社が実際にオンライン展示会に出店した。
5	経済交流支援事業	前年度に続き未実施、今年度の実施は困難と判断。
6	受託事業	「あきた海外展開支援ネットワークポータルサイト」管理業務については、これまで同様に継続中。その他、秋田県、秋田市等からの事業受託の予定はない。

その他、意見要望活動および貿易相談と普及啓発活動は概ね順調に進捗しています。また、4～5月にかけては137先の会員企業訪問活動を実施、情報交換等を行いました。新年度も継続実施を予定しています。

米国プロモーション活動

日本酒講座「WSET SAKE LEVEL3」認定試験を実施

10月25日、ワインやスピリッツの世界的な教育機関WSET(Wine & Spirit Education Trust)が認定する日本酒資格「WSET SAKE LEVEL3」の認定試験を秋田市にぎわい交流館AUで実施しました。

これは9月13日から15日にかけて開講したWSET SAKE LEVEL3の受講者を対象とした試験です。(講座の詳細についてはニュースレター第58号をご覧ください)

試験は筆記試験とテイスティング試験の二部構成となっており、講座と同様、出題および回答はすべて英語で行われました。

合否の決定はWSETの本部があるロンドンで行われます。発表は2月ころを予定しており、合格者には認定証が送られます。

昨年度に開催したWSET SAKE LEVEL1と、今回のLEVEL3

が、今後の県産日本酒の海外進出やインバウンドの獲得に役立つことを期待しています。



認定試験の様子

WSET SAKE LEVEL3を受講した皆様からの感想

今回受講しましたWSET SAKE LEVEL3は以前受講したLEVEL1と比較すると清酒製造のイロハから酒種の特徴や味わい、その特徴の表現等の幅広い内容を網羅した非常に実践的な講習だと感じました。短期間で集中的に授業が行われたこともあり、英語の授業内容を整理して理解するには苦勞をしましたが、内容が分かってくると講習をより楽しんで学ぶことができました。近年、清酒の海外需要は伸びている状況にもあるため、今回学んだ知識、経験を積極的に活かしていきたいと思っています。

LEVEL1と比較すると急に内容が難しくなったので、日本酒について、特に製造工程に対してそれなりに知識がないとついていけないなと感じました。また、3日間の集中講義だった為、1日に学習する量とテイスティングの量が膨大で、かなり濃い3日間でした。授業内容に関しては、カテゴリごとに深く知ることが出来たので、参考になりました。コロナが明けてまたインバウンドのお客様が来た時に、今回学んだことを最大限に生かせればと思います。

通常ならば数か月間にわたり東京で受講しなければならぬ講座を3日間集中というかなりきついスケジュールではありましたが、秋田で受講できたことには大変感謝しております。講座はすべて英語で行われ、内容もワインの観点から見た日本酒、そして細かいテイスティングなど今まで日本酒に関わってきた私にとっても新鮮で大変興味深いものでした。今回の貴重な経験を活かし、これからも海外への発信に活かしていきたいと思ひます。

LEVEL3はなぜ?や、どのように?を突き詰めていくことが重要であり、講座を通じて専門的に学ぶことで、日本酒造りにはとても繊細な作業や管理が必要なこと、そして改めて奥深さを知ることができました。普段お客様に自社の酒の紹介や酒造りの工程を説明する機会が多くありますので、英語での表現も活用し国内外のお客様にもっと日本酒の魅力を伝えられるよう、今後活かしていきたいと思ひます。このような貴重な機会をいただき、ありがとうございました。